

論壇



慶子 糸数

カジノを観光の切り札に、と考える人々は今なお後を絶ちません。国会では「国際観光産業としてのカジノを考える議員連盟(カジノ議連)」が観光庁設立の動きと並行して活動を活発化させています。

沖縄では仲井真弘多知事が「観光客一千万人誘致」の推進

カジノ導入の動きき危惧

沖大講座で「光と影」討議

力としてカジノ導入を意図し、そのための検討委員会を立ち上げる一方、「沖縄振興特別措置法」を活用できないかなど動きを本格化させています。

法改正で特例化し、沖縄の歴史や文化および自然から隔絶された施設となる「賭博場」が観光振興なのか理解に苦しみます。

し、十一あったカジノは三年間で二十四施設に増えました。暮らしは良くなったとする半面、子どもたちの将来への不安を指摘する声も聞きました。

土曜教養講座は六日(土)午後一時から沖縄大学1号館601教室で開きます。多くの県民の参加を呼びかけます。

生活に悪影響・観光を振興… カジノ導入賛否白熱

沖大でシンポ

県内へのカジノ導入を考えるシンポジウムが六日、沖縄大学であり、賛否双方の識者や教育、精神医学の専門家が意見を交わした。

増で年金も増えたが、物価が上がり生活環境は悪化した「ディーラーの専門学校に行く若者が多く、地域に将来が心配。子どもにはさせたくない」との声や、カジノと性産業がセットになっている実態を報告した。

シンポジウムでは、ギャンブルや薬物依存に詳しい医師の稲田隆司さんが、ギャンブル依存で受診した八十九人のデータを提示。患者は少なく言う傾向がある

依存の姿 認識必要 専門医師

の控えぬ数字」として、平均が五百二十六万円、負債平均が二百四十万円との統計を示した。

%、離婚率が15%と、県内平均を大きく上回ることも指摘。依存症により本人、家族、雇用者、社会それぞれにケアコスト、生産性低下の負担がかかること、外

個人がカジノに来てホームレス化する報告もあるとし、「推進、反対の双方とも共通に認識すべき問題」と訴えた。沖縄社会を生命体に例え、「カジノは劇薬に近い。外科的手術に体が耐えられるか、漢方のようにじっくり取り組むべきか」と提起した。

のではなく、観光振興の一つの仕掛け」と強調した。オーストラリアが国家戦略でカジノを取り入れて成功した例を紹介。波及効果が数千億円との試算を示し、「沖縄の自然とカジノをコラボレートすれば世界有数の観光地に成り得る。地元の人

沖縄キリスト教学院大学准教授の新垣誠さんは「若者が勉強したことを生かせる社会づくりが、大人の責任。マネーゲームが生活を脅かす現状で、カジノを議論するならば、慎重に考える必要がある」と述べた。

会場からは「議論を聞いて反対が変わった」「一般社会から切り離せばいい」となどの声が上がった。

浦添市議会議員選挙は2009年2月8日です

豊かで住みよい街づくり

とう山勝利

社大党公認

